

ツヌジ御嶽



ツヌジ御嶽は大世の主をまつる赤崎御嶽の遥拝所(遠く離れた所から神仏などを拝む場所)で、毎年旧暦6、8、10月の甲午の日に例祭が行われ、11月には御願が行われます。

昔、赤崎御嶽の例祭日に出かけた途中で大雨にあい、大岩の陰で雨宿りをして晴れるのを待つも、なかなかやまず、仕方なくその大岩に供え物をし、行けない事情を報告して帰路についたことがあったそうです。それ以来、雨宿りした岩を赤崎御嶽のご神体として拝むようになったといわれています。

今では、赤崎御嶽にお参りするの
は司や神女たちで、一般の人々はツ
ヌジ御嶽から遥拝するようになって
います。

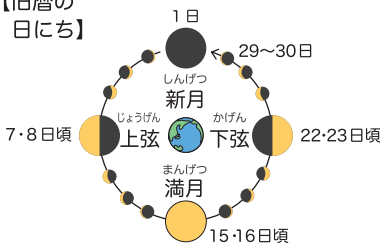


きゅうれき えと 旧暦と干支

旧暦とは

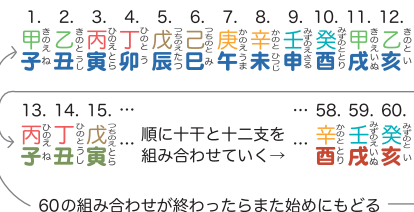
つき み か たいよう うんこう
月の満ち欠けと太陽の運行をもとに作られた「太陰太陽暦」のこと。
に ほん めいじ
日本では、1872(明治5)年まで「天保暦」が使われていました。
むかし ふうしゅう ぎょうじ おお
昔からの風習や、行事の多くはこの旧暦に従って行われています。

【旧暦の日にち】



えと 干支とは

じっかん じゅうに し く あ
「十干」と「十二支」を組み合わせ、
しゅうき すう し じ かん
60を周期とした数詞で、暦や時間、
ほう い もち
方位などに用いられます。



それぞれの干支には、「子」は子孫繁栄・財、「午」は豊作・健康といった意味がある。

例：2013年4月28日の場合、

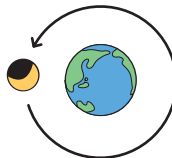
年の干支：2013年は癸巳、

次の癸巳の年は60年後の2073年

月の干支：4月は丁巳、以下5月戊午、6月己未

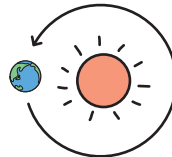
日の干支：28日は甲子、以下、29日乙丑、30日丙寅

太陰暦



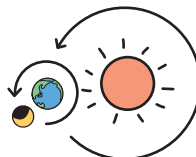
ちきゅう まわ しゅう
地球の周りを、月が1周する動きをもとに作られた暦。季節と無関係。潮の満ち引きや動植物の変化が分かる。1年は12ヶ月で、小月(29日)と大月(30日)がある。

太陽暦



太陽の周りを地球が1周する動きをもとに作られた暦。現在、世界中で使われているグレゴリオ暦(新暦)のこと。季節と日にちが合っている。

太陰太陽暦



月の満ち欠けを中心に太陽の動きを取り入れた暦。うるう月の入る、1年が13ヶ月の年もある。

じゅうに し 【十二支】

ね うし とら う たつ み うま りつじ さる とり いぬ
「子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥」の12種類で年や月、方角、時間を表す。

じっかん 【十干】

とうきゅう く べつ つか こう おつ へい てい ぼ
等級区別に使われる「甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸」の10区分を、五行や陰陽の考え方と組み合わせたもの。



五行：自然や世界は木・火・土・金・水の5つの元素からなるという考え方。陰陽：陰と陽の対立する2つの気があり、全ての変化はこのふたつの気で起こるとする考え方。日本では陽を元、陰を弟とする。

ミャーツ墓^{ぼか}



この墓は、16世紀前半、当時下地の主長を務めていた川満
 大殿の命を受け、与那覇湾に面する加那浜に石道を造り上げ、
 見事大任を果たした石工一族、浜氏の墓です。この一族系列で
 ある上地家の一部では、名前に「濱」の一字を付けていたとい
 われています。ミャーツ墓は、琉球石灰岩などの巨石を積み上
 げて造られています。宮古特有の巨石
 墓で、四方を囲った上に大きな一枚岩
 を乗せており、このような形態の墓を
 「ミャーカ墓」といいます。



スムリヤーミャーカ



しゅうらく やく なん ぼう なが ま け いち ぞく
 集落から約800m南方にあるスムリヤー(長間家)一族の
 きょ せき ぼ ふる くり ま ぶ とう ぬ きん だい
 ミャーカ(巨石墓)で、古くは来間大殿ミャーカ、近代ではグ
 よ たい しょう じ だい し しょう
 ソンソーミャーカとも呼ばれ、大正時代まで使用されていたと
 つた とう ざい なん ぼく ちょう ほう けい
 伝えられています。東西9m、南北およそ6.5mの長方形で、
 たか じょう ぶ いた じょう いし おお
 高さは2.5mあり、上部は3.5m×3mの板状の石で覆われて
 はか ない ぶ せい き
 います。墓の内部からは14~15世紀
 ごろ せい じ へん み
 頃の青磁片なども見つかっており、
 とく ちょう あらわ
 ミャーカの特徴をよく表しています。



ヤーマス御願^{う がん}



ヤーマス御願^{まい とし}は毎年
9月頃^{きのえうま ひ おこな}の甲午の日に行
われ、来間島全島民^{くり ま じま ぜんとう みん}が
参加^{さん か だいぎようじ}する大行事です。

1日^め目は、スムリヤー、ウプヤー、ヤーマスヤー^{さん け}の三家で行わ
れます。三家^{けつ ぞく}の血族を、スムリヤーぶなか、ウプヤーぶなか、
ヤーマスヤーぶなかといひます。朝早く^{あさはや}からブナハ^{せん こう}(線香)と洗米^{せん まい}
を持ち^もそれぞれのぶなかに行きます。このときこの1年間^{かん こ}で子ど
もが生まれ^うた家からは酒1升^{さけ しょう}とご馳走^{ち そう}(マスモリ)を、その年に21
歳^{さい}になった若者^{わか もの}がいる家からは酒1升^よが寄せられます(マス
ピヤー)。それに並行^{へい こう}して神司^{かんつかさ}たちが早朝^{そうちょう}から島の3か所^{しま しょ}の御嶽^{う たき}
で御願^ごをし、その後、人々^{ひと びと}にお神酒^{み き}を1杯^{ばい}ずつ振る舞^ふいます。こ
うして1日中^{じゅう}、それぞれのぶなかで過^すごします。

2日^{ふた}目も朝からぶなかに集まり、歌^{うた}を歌ってお神酒^{かみすけ}をいただき
ます。午後^{ご ごと}は行列^{ぎょうれつ}をなしてぶなかから踊り出^{おど}て、中御嶽^{なか}の広場^{ひろ ば}で
島民^{いち どう}一同^{しゅう えん}で酒宴^{しゅえん}を催^{もよお}し楽^{たの}しみます。日暮^{ひ ぐ}れにはそれぞれのぶなか
へ引き揚げ^{ひ あ}、最後^{さい ご}の酒宴^{しゅえん}を催^{もよお}し、2日間^{まつ まく}の祭^{まつ}りの幕^{まく}を閉^とじます。

くり ま し ま だ 来間の島建て

「下地町の民話」上地正吉さんのお話より

昔、川満の喜佐真按司に美しい娘
がおりました。ある朝、太陽の強い
光が当たると娘のお腹が大きくなり、
3年と13日目に3つの卵を産み
落とし、3日後に大きな男の子が3
人産まれました。喜びもつかの間、
長男は1日に米を7升、次男は5
升、三男は3升も食べたので、世話
をしきれないと思った母は、子のい
ない那覇勢頭豊見親に差し出しま
した。ところが勢頭豊見親もとても
育てられず、「来間島に行ってはど
うか」と3人を島へ行かせました。

3人が島に渡ると、島には90歳
のおばあさんがたった1人で住んで
いました。なぜ誰もいないのか尋ね
ると、海から恐ろしい赤牛が来て皆
をさらってしまったと言うのです。
そこで三兄弟が海に様子を見に行く
と、赤牛が恐ろしい勢いで襲いか
かって来ました。弟ふたりは敵わ
ず、長男が角を掴まえて地面に叩き
つけ、「降参なら許す」と片角を引
き抜いて逃がしました。

翌朝、潮がすっかり引いた海で牛
を捜し歩いていると、海の底にきれ
いな女の人がいる！と三男が言いま
すが、兄たちには見えません。三男

が潜ってみると、不思議なことに海
底は陸になっていました。三男が見
た女は「赤牛に捕まってここで門番
をしている」言うので、兄たちを呼
び寄せ、女に案内されて立派な家に
入りました。すると、顔が血だらけ
の赤牛が這い出て来たので、なぜ人
間をさらったのかと聞くと、「300
年前の来間島は『千人原』といって
下地島に新しい村を作るほど栄えて
いたのに、豊年祭をやめてしまっ
た。だから怒ってここに連れてきた
のだ」と言うのです。実は、赤牛は
来間の豊年の神様だったのです。

「必ず豊年祭をするから、皆を返
して欲しい」と頼むと、「もう誰も
動けない。この娘だけ返そう」と返
してくれました。その娘はおばあさ
んの子で、喜んだおばあさんは長男
の嫁にしました。そして、2人の間
に産まれた子どもが次男と三男の嫁
になりました。それからは神様と約
束した通り、三家で豊年祭を立派に
行うようになり、こうして来間島は
元通り栄えるようになりました。



あま ごい ざ

雨乞座のデイゴ



このデイゴの木は元来間小中学校東側の雨乞座にあり、神木とされています。毎年9月頃の甲午の日に行われるヤーマス御願のとき、この神木の下で踊りが奉納されます。このデイゴは、スムリヤー、ウプヤー、ヤーマスヤーの3兄弟が1本ずつ植えたといわれていますが、うち1本は何者かによって切り倒され、もう1本は2019年の台風で倒れてしまい、現在は1本のみが残っています。



デイゴ (沖縄県の花)

マメ科の落葉高木で
インド原産。沖縄が北限地。
漆器の材料として使われる。

4~5月に
花が咲く

竜宮展望台



遠見台

集落

古い座の
デイゴ

集落の中心
点にある



温泉を巡る道

音の谷の
新幹線

遊歩道

井ノ降の
石段

遊歩道
絶壁

来町が

集落へ

展望台

旧道

足元
雪注意

港へ降り
石段

1970年頃は
港もなく、浜に船を
おきあげていた



築港大下橋

----- 徒歩コース

全長1690m 1995年3月南
海橋としては日本最長

さきしましょう ひ ばんむい
先島諸島火番盛

くり ま とお み
「来間遠見」



来間遠見は、沖縄県の2市2町1村の、19か所に点在する
遠見番所群のひとつです。琉球石灰岩を3 mほど積み上げ、
方位を示す石も備えられています。第二次世界大戦で日本陸
軍によってさらに補強され、今の形になりました。

昔は対岸の与那覇前浜に役人の姿を確認すると、すぐに村
番所に伝え、はや舟を出して迎えることになっていました。

火番盛は1644(正保1)年、江戸幕府の鎖国体制下で琉球
王府によって設置されました。主に異
国船の到来を監視し、のろしを上げて
各地の火番盛を伝い、琉球王府へ知ら
せる機能を担っていました。



くり ま がー
来間川(泉)



来間集落北側の断崖絶壁に約130段の石段があり、その階
下にこんこんと湧き出る島唯一の泉は、長年にわたり来間島
住民の暮らしと命をつなぐ源でした。いつの頃からか、泉の
中に樫の木が生え、それを取り除いたら水が出なくなって大
騒ぎになりました。ユタに頼んで神にお伺いを立てたところ、
神木の樫の木を取り除いたからだという神のお告げがあり、
樫の木を元に戻すと再び水がこんこんと湧き出し、今日
にいたっていると伝えられています。

1975(昭和50)年に宮古島本島から
海底送水が行われるようになると、こ
の泉は使用されなくなりました。



くり ま じま だん がい しよく せい

来間島断崖の植生

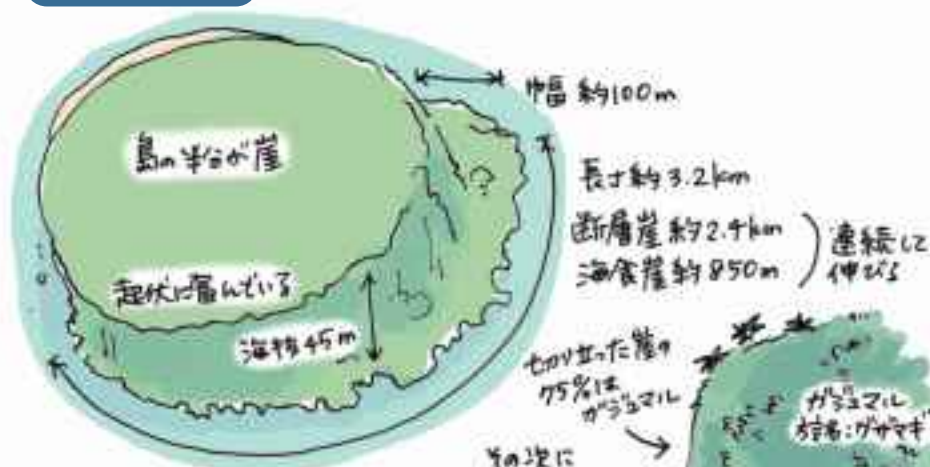


来間島の北海岸には、断層がずれてできた断層崖が広がっています。この断層崖は宮古群島を特徴づけるいくつかの断層稜線のひとつであり、第四紀更新世(約258万8000年前～約1万1700年前)の頃に形成されています。

地質は琉球石灰岩でできており、島の半分を断層崖と波によって浸食された海食崖を取り囲み、高い所では海拔約45mあります。変化に富み、環境別に様々な植生が見られ、多くの貴重な草木があります。



来間島の植生



崖下は
草が茂った
岩の目立つ
肥沃な土地
・クロヨナク群生

全平面に
なる

- ・インドネシア
- ・ガブマ
- ・ツゲモドキ
- ・アカツツ
- ・トビ
- ・リュウキュウガキ
- ・アサ

その次に
ソテツ
ゴウシ
タニワ
アマミ
ヒトサバ
ナギサ
見られ

セカイでは 75%は カラダで

その次に
ソテツ
ゴウシ
タニワ
アマミ
ヒトサバ
ナギサ
見られ

イムバ
リヤリツバ
方集落-キカツキ
三斗子

ブナコエ
タニワダ
(オオタニワダ)
古名: パンナキ

ツゲ"モド"キ
木肌が
おもしろい

10月14日
おたけい
アダン

ク口型ナ(セキボウ)

平^①杜^②日^③黃^④

いんぎく
紙巻花は早くと咲き
コロコロ
重なる

リョウキエツガキ
本館よりくりの
リョウキエツガキ。
でも有毒注意

ぶん かい たいけい ず
文化財の体系図

しやうい
文化財の種類

か ち たか
特に価値の高いもの

とく じやうよう
特に重要なもの

じやうよう
重要なもの

文化財

ゆうけい
有形文化財

建造物
美術工芸品 工芸品、絵画、彫刻、書跡、典籍、古文書、考古資料、歴史資料など、形のあるもの

してい
指定
とうろく
登録

重要文化財

指定

こく ほう
国宝

世界から見ても価値が高い、国の宝

登録有形文化財

むけい
無形文化財

演劇、音楽、工芸技術などの、形のない、人間の「わざ」そのもの

指定
せんたく
選択

重要無形文化財

きろく さくせい かんが
記録や作成などを考える必要のある無形文化財

みんぞく
民俗文化財

有形民俗文化財 無形民俗文化財に使われる衣装、器具、家屋など
無形民俗文化財 衣食住、生業、信仰、年中行事などに関する風俗習慣、民俗芸能、民俗技術

指定
登録
選択

重要有形民俗文化財

重要無形民俗文化財

登録有形民俗文化財

きろく さくせい かんが
記録や作成などを考える必要のある無形民俗文化財

き ねんぶつ
記念物

遺跡 貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅など
名勝地 庭園、橋梁、溪谷、海浜、山岳など
動物
植物
地質鉱物

指定
登録

し せき
史跡

指定

とく べつ
特別史跡

めい しょう
名勝

指定

特別名勝

てん ねんき ねんぶつ
天然記念物

指定

特別天然記念物

登録記念物

けい かん
文化的景観

地域の人々の生活または生業及び地域の風土によって形成された景観地 棚田、里山、用水路など

都道府県または市町村の申し出に基づいて選定

重要文化的景観

でん とうき げん ぞうぶつぐん
伝統的建造物群

宿場町、城下町、農漁村など

市町村が決定

伝統的建造物群保存地区

せんてい
選定

重要伝統的建造物群保存地区

ぎ じゅつ
文化財の保存技術

選定

選定保存技術

文化財ではないが、保護の対象となっているもの。文化財の保存に必要な材料や用具の生産制作、修理・修復の技術など

まい ぞう
埋蔵文化財

土地に埋まっている文化財

ひつよう
特に必要のあるもの

ほぞん かっよう
保存と活用が特に必要なもの

保存できるよう考える必要のあるもの

それぞれの文化財の一例

※宮古島市や、沖縄県、九州にある文化財の一例

有形文化財

かたち
形のあるもの

形のないもの

無形文化財

重要文化財

豊見親墓3基
(こうみみやばか3き)

国宝

冶金丸 / 沖縄県
(じがねまる / おきなわけん)

登録有形文化財

旧西中共同製糖場煙突
(きゅうにしなかきようどう
せいとうじやうえんとつ)

重要無形文化財

宮古上布
(みやこじやうふ)

重要有形民俗文化財

ウイピヤームトゥ
の祭場 (さいじやう)

民俗文化財

重要無形民俗文化財

宮古島のパーントゥ

文化財

記念物

史跡

歴史上の名所

特別史跡

遠見番所
(とあみばんじよ)

吉野ケ里遺跡 / 佐賀県
(よしのがりいせき / さがけん)

登録有形民俗文化財

竹富島の生活用具 842 点 /
沖縄県・竹富島 (たけとみじま
のせいかつようぐ / たけとみじま)

文化的
景観

指定

重要文化的景観

登録記念物

旧仲宗根氏庭園
(きゅうなかそねしでいえん)

名勝

東平安名崎
(ひがしへんなさき)

特別名勝

識名園 / 沖縄県
(しきなえん)

天然記念物

オカヤドカリ

特別天然記念物

イリオモテヤマネコ

伝統的
建造物群

住きしてき
歴史的なまち
なみや景色

伝統的建造物
群保存地区

指定

重要伝統的建造物群保存地区

竹富島の農村集落 / 沖縄県 竹富島
(たけとみじまの りうそんしゅうらく)

選定保存技術

芋麻糸手績み
(ちまいとてうみ)

文化財の
保存に
大事な技術

埋蔵文化財

住屋遺跡
(すみやいせき)

